

奈良っ子はぐくみワークブック

ひとたね

“hitotane”

Narakko Hagukumi Workbook

Your childcare becomes the “hitotane of beginnings”.

あなたの保育が
はじまりの
「ひとたね」になる。

ひとつたね

小さなたねのひとつ粒が
星の大地と出逢うとき
いのちの芽吹きが始まる。

抱き、潤し、温め、揺らす。

土と水と、火と風と。
自然が織りなすサイクルは、
私たちにいのちをはぐくむ
原理を伝えています。

私たちには、思いのままに
たねを発芽させる力はありません。
私たちには、思い通りに
苗を育てる力もありません。

私たちにできるのは、
自然がそうあるのと同じように、
たねが芽を出せるような、
苗が根や幹を伸ばせるような、
環境を整えること。

たねが芽吹くとき、
そこには温かく
湿った土があります。
苗の幹が強くなるとき、
適度な風がそよいでいます。

自然の原理を
保育に当てはめれば、
私たちにできるのは、
子どもに秘められた可能性の
たねが芽吹き育つために

温かい、潤いと揺らぎのある
保育環境を整え、見守ること。
それは、言い換えれば、
「信じて、待つ」ことです。

本書には、正解のない
この世界で懸命に生きる
皆さんの心に火を灯し、
その足元を照らし、
大人と子ども、
それぞれの「ひとつたね」が
芽吹ききっかけになるようにという
願いが込められています。

今日も、保育の可能性を
信じて取り組む、
あなたの一助になりますように。



- 01 ひとたね
- 02 もくじ
- 03 奈良県の取組における本書の位置付け
- 04 奈良県が目指す就学前教育
- 05 本書で目指したこと
- 06 本書の流れ

〈STEP 1〉

- 07 はぐくみマインドをセットして固定観念を見つめなおす。
- 08 はぐくみマインド その1 いのちのめぐりを意識しよう!
- 09 はぐくみマインド その2 自然の営みに学ぼう!^{まね}
- 10 はぐくみマインド その3 自然界にも保育にも正解なんてない!
はぐくみマインド その4 誰もがみんなありのままがいい!

〈STEP 2〉

- 11 はぐくみメガネで新たな視点に出会う。
- 12 保育の可能性を広げる3つのフレーム(視点)
- 13 フレーム ❶ 子どもの姿
- 14 フレーム ❷ 保育者の多様性
- 15 フレーム ❸ 環境の設定

〈STEP 3〉

- 17 テーマごとのエピソードから保育の可能性を探究する。

18 自然保育

- 19 自然保育で私たちは何をはぐくみたいだろうか?
- 20 エピソード その1 生きもののたまごがあったよ!
- 21 エピソード その2 たくさんお団子つくったよ!
- 22 はぐくみズームアップ!『ひとつの姿』
- 23 はぐくみ相談室 岡本麻友子さん

25 食育

- 26 私たちは食育を通じて何を目標しているのだろうか?
- 27 エピソード その1 ごはんを食べよう!
- 28 エピソード その2 集まって何か食べてるよ!
- 29 はぐくみズームアップ!『ひとつのシーン』
- 30 はぐくみ相談室 野口孝則さん

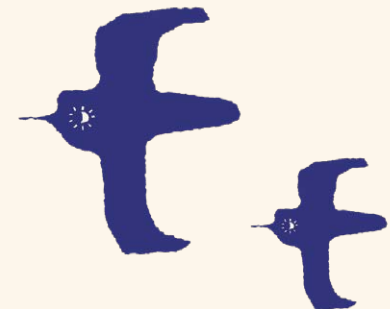
32 芸術

- 33 芸術ってそもそも何のためにあるのだろうか?
- 34 エピソード その1 トゲトゲがズボンにくっついたよ!
- 35 エピソード その2 きれいな実を見つけたよ!
- 36 はぐくみズームアップ!『ひとつの道具』
- 37 はぐくみ相談室 永渕泰一郎さん

〈STEP 4〉

- 39 さまざまなアプローチからはぐくみを実践する。
- 40 アプローチ その1 はぐくみのサイクルを回そう!
- 41 アプローチ その2 時間を柔軟に使ってみよう!
- 42 アプローチ その3 振り返りで保育の質を高めよう!
- 43 アプローチ その4 自分自身と振り返りをしてみよう!
- 44 アプローチ その5 チームで振り返りをしてみよう!
- 45 アプローチ その6 園の外に出て、はぐくみ仲間を見つけよう!

- 46 はぐくみ実践ワーク集
- 47 はぐくみの実践を覗いてみよう!
- 48 ワークシートⅠ〈環境設定編〉
- 49 ワークシートⅡ〈エピソード編〉
- 50 ワークシートⅢ〈ひとつの姿編〉
- 51 おわりに



奈良県の取組における本書の位置付け



実

就学前の子どものはぐみ推進

日々の保育の場で「はぐみ」を実践するヒントとなるワークブック

奈良っ子はぐみ条例や奈良っ子はぐみ基本方針、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」などで示した考えに基づき、より一層就学前の子どものはぐみを推進するため、保育者向けワークブック「ひとたね」を制作しました。

幹

奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」

子どもの発達や関わり方について理解を深めるための基本プログラム

「はばたくなら」は、県内のすべての子どもたちが、在籍する施設に関わらず、質の高い教育・保育が受けられるよう、共通する指針として教育課題の解決に向けた関わり方を示したプログラムです。乳幼児から継続して取り組むことができるように「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」の向上の視点から作成されています。

根

奈良っ子はぐみ基本方針

就学前教育に関わるすべての人の「意識の共有と実践」のためのガイドライン

就学前教育の目標、はぐみの視点、「学ぶ力」「生きる力」を
培う3つの土台づくりについて、県の考え方や方向性を整理

就学前教育を総合的に進めるための方策を「奈良っ子はぐみ
プロジェクト」として取りまとめ

土

奈良っ子はぐみ条例

すべての子どもたちが、将来に夢と希望を抱き健やかに成長できるよう、県の基本的な考え方や施策を明示

3つの基本理念や4つの基本的施策の柱をはじめ、県の責務、市町村や関係機関などとの連携・協力、関係団体の役割などを定めています。

〈3つの基本理念抜粋〉

- 1 子どもの有する権利を十分に尊重し、
子どもの最善の利益を優先する
- 2 子どもの成長の可能性を最大限に広げる
- 3 子どものはぐみを社会全体で支える

第2期奈良県教育振興大綱

一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐむ奈良県教育が目指す方向性を示した大綱

「こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐむ」をテーマに掲げ、「就学前教育の充実」と「こころと身体のはぐみ」を施策方針に位置付け

奈良県が目指す就学前教育

奈良県は将来を担う子どもが健やかに成長できるよう願いを込め、「一人ひとりの『学ぶ力』と『生きる力』をはぐくむ『本人のための教育』を行う」ことを目指しています。

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で示される「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、奈良県では特に「学ぶ力」「生きる力」を培う3つの土台（「自己肯定感・自尊感情」「他者への寛容なこころ」「健やかな身体」）づくりとして掲げています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を一部改編。

(1) 健康な心と体

保育所、幼稚園、認定こども園等における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所、幼稚園、認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※奈良県では、県内の就学前のすべての子どもが、在籍する施設に関わらず質の高い教育・保育を受けることができる環境づくりを目指しています。

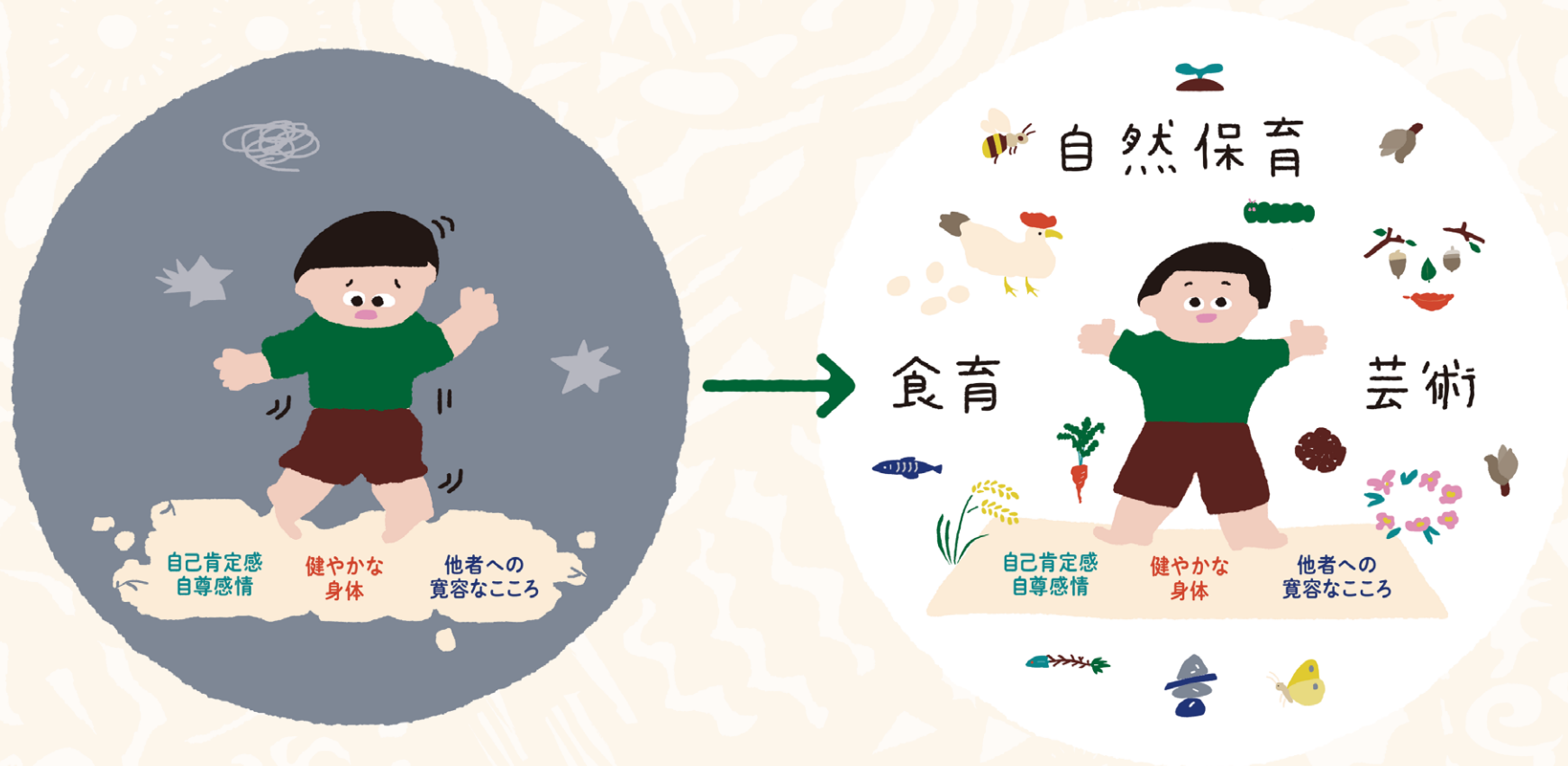
本書で目指したこと

保育の可能性を照らし、子どもの3つの土台を共にはぐくむこと。

本書では「奈良っ子はぐくみ基本方針」で就学前教育の目標として掲げられた「学ぶ力」「生きる力」を培う3つの土台

「自己肯定感・自尊感情」「他者への寛容なところ」「健やかな身体」をはぐくむことを目指し、

いのちのめぐりのなかでつながり合う「自然保育」「食育」「芸術」の3つのテーマを軸に、保育についての前提や視点、問い、実践方法などを紹介しています。



4つのSTEPで構成されています。

読み進めながら、「固定観念を見つめなおす」「新たな視点に出会う」「保育の可能性を探究する」「はぐくみを実践する」というステップを一段ずつ上ってもらえるよう、冊子の内容を構成しています。

STEP 1

はぐくみマインドをセットして 固定観念を見つめなおす。

いのちのめぐりの観点から改めて保育を捉えなおし、どのような保育の可能性があるのかを自らに問い、考えていく大前提として、はぐくみマインドを取り入れてみましょう。

保育者の
「はぐくみ」です。



STEP 2

はぐくみメガネで 新たな視点に出会う。

固定観念を見つめなおしたら、次は新たな視点に出会いましょう。「子どもの姿」「保育者の多様性」「環境の設定」という3つのフレーム(視点)が、保育の可能性を広げてくれるはずです。



STEP 3

テーマごとのエピソードから 保育の可能性を探究する。

「自然保育」「食育」「芸術」というテーマごとに、日常のなかで新たな保育が発想されるエピソードを紹介。有識者によるQ&Aも交えて、あなたの保育の可能性を探究していきましょう。



STEP 4

さまざまなアプローチから はぐくみを実践する。

保育のサイクルを意識した時間の使い方や質を高める振り返りの仕方、保育者同士の情報共有、チームづくりなど、より良いはぐくみを実践するためのさまざまなアプローチをご紹介します。

